

前作は級数展開がメインだったが、今回のテーマは素数の組み合わせだろうか。

物語としては、前作のキャラに加えて、妹キャラのいとこの子が一人増えてます。その分二人の印象が弱くなった感があるので、ラノベとしては前作は優れていたのに、今回はそういう面ではちょっと残念かもしれない。

タイトルのフェルマーの最終定理は、その証明の概要をさわる程度で終わってしまう。この本は、むしろそのさわりについて理解できることが目的だろう。